
神様のいけない遊び

二兎秋人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様のいけない遊び

【Nコード】

N4271I

【作者名】

二兎秋人

【あらすじ】

主人公は自分が不幸なのは神様が天で私をいじめて楽しんでるのではないかと思う。そう思うのは生まれてきてから現在まで嫌な思い出の中で生きてきたからだった。

ああ神様と人々はいうけれど、一体神様は私たちにどれほどの幸福を与えてくれたのだろうか？

実は神様というのは無慈悲で、地上で私達が数々の災難や理不尽な仕打ちに苦しんでいるのをはるかな高みから見下し、そして嘲笑いしているのだと感じるようになったのは一体いつからだったのだろうか？

考えるまでも、思い出すまでもない。なぜなら、二つとも答えはつい最近見つけたものだからだ。

前者は大学受験に向け、世界史の教科書を穴が開くほど凝視しながらノートにまとめている時に気が付いた。

当時私は自分の足りない脳みそに少しでも世界史の情報を詰め込むように、ちよつとでもお利口さんになるようにと躍起になってシヤーペンを真つ白なノートという運動場の上で走らせていた。

要領を得ず、何も考えないで教科書に書いてあることをノートに模写している状態だったので、きちんと理解できているのかと問われると困ってしまうのだが、多少の知識を得ることはできたと思う。だからこそ前者は発見できたのだ。

細かいことは旧石器時代からまったく進化していないらしい私の脳みそでは理解できなかったが、教科書によると、昔、世界のあちこちで人々は神様を信じていたらしい。いや、今でも信じている人はいると思うが、昔の人は信仰心というものが今に比べると強かったのだらう。時代の節々では神々しい神様の絵画が世界史の教科書にこれまでもかというぐらい載っていた。

本当に神様がいたかどうかはともかく、きつと常識ではありえない奇跡が人々を救っていたのだらう。だから多くの人は神様を長い間崇拜し続けてきたのだ。

だが、神様は救うだけではなく命をも奪った。宗教の違いという

ものが多くの争いを起こし、そして多くの人の血が流れたのだ。

そこで私は思った。

神様は人々にどれほどの幸福を与えたというのだろう。多くを救っても同じように命を奪っては意味がないではないか。一体神様は何がしたいのだろうと。

後者は私が大学受験に落ち、人生の底につき落とされたように感じた時に気が付いた。

「大学にもし落ちたらどうするの？」と尋ねてくる親や担任に対して「大学に落ちたからといって人生が終わるわけじゃない」と豪語して見栄を張って難関大学を受験し、そして失敗した私は言葉とは裏腹にシヨックのあまり布団にこもってしまった。

父親には「これから先どうするんだ」と責められ、母親には「一生懸命頑張ったからいいじゃない」と慰められ、妹には「お姉ちゃん頭悪いんだから見栄を張らなきゃよかったのに」と馬鹿にされた。責められても、慰められても、馬鹿にされても私はつらかった。だから布団を頭からつま先までかぶって自分の殻にこもろうとしたのだ。きつとこの真っ暗な空間は私の逃げ場になってくれると思っただから。

よくよく考えると一人で自分の殻に閉じこもるなんてことを私はいままで一度もしたことがない。皮肉にも大学受験失敗のお陰でこの時間を得ることができたのである。

私はカーテンを閉め切った部屋で、真っ暗な布団の中、どこで間違えてしまったのだろうと考えた。中学生の頃かな？それとも小学生の頃？

そうやって考え続けていると驚くほど昔のことを回顧していた。そして結論はこのようなものだった。

『わたしは生まれたところから失敗していたんだ』
だってそうなのだ。

生まれた時からなぜか他人とコミュニケーションをとるのが下手だった私は、このままでは家の中ではこもってしまうのではないか

と親に心配され、小さな村へ引越しをした。きっと人数の少ないクラスの中ならのけ者にされたりしないし、この自然豊かな環境が私を成長させてくれるだろうと考えたのだ。

だが、引越してきた先の学級閉鎖になりかけなのかと思わせるくらい人数の少ないクラスも、針葉樹林だらけの外の環境も私の心を豊かになどしてはくれなかった。それどころか私の心をもっと内気なものにした。

人数の多い学級ならまだよかった。なぜなら、がやがやとにぎやかな周りの環境が私を隠してくれる。クラスの中で浮いていても「こいつはもともと暗いやつなんだ」という暗黙の了解というやつが自然とできて、どうにかみんなの中に溶け込めることができたのだ。だが田舎ではそうはいかない。

都会から来た私を物珍しそうにしてあれこれと聞いてくる環境が人と話すのが苦手な私は苦痛だった。

「都会ってどんな場所なの？」

と聞かれても

「うーん……………」

と喋って黙ってしまう。

別にたいしたことではない。工場の煙突から汚い煙がたくさん出ていて人がゴミのようにたくさんいる所だよといってやればいいだけなのだ。だけど、なぜ私はたったそれだけのことが言えなかった。たったそれだけのことで言葉にしないと人の輪はつながらない。こうして自分の気持ちを伝えられない私が都会じゃないここにもいて、ああ私はこっちに来てても浮いているんだなと思った。

ところが、田舎では浮くだけではすまなかった。人と接点が増えれば増えるほど人と人とは接触したがる生き物なのだ。だけど私はその接点を結ぶことをなかなか見つけることができない。だけどそれでも相手は私に言葉を求めてくる。でもやっぱり私は答えられない。

そんな状態がいつまでも続くとうなるか。私はそれを身をもつ

て体験する。

それは相手に感情を伝える手段を声から打撃へと変更するのだ。要するにいいじめだ。

私はいつしか学校に行けばいいじめられるようになっていた。

私の顔を見れば殴られ、蹴られ、そして罵られた。

それは小学校から中学校へ行っても変わらなかった。

苦しくてたまらなかった。逃げ出したいと何回も思った。だけど、家の周りに聳え立つ針葉樹林はまるで城壁のようで私の行く手を阻んでいるかのように見えた。

だけど私はわざわざ自分のために引越しを考えてくれた親に迷惑をかけたくなって学校に通い続けた。学校でつらいことがあっても家族の前では明るく振舞った。

高校へは同じ学校に入る子のいない学校を選び、人数が多くなつたのでそういったことはなくなつたが、もう手遅れだった。

もう私は完全に人とつながる手段を失ってしまったのだ。もう人を誰も信じられなくて人に話しかけるのが怖くなってしまった。

高校で友達を作断念し、私は大学で友達を作ることにした。しかし私は大学に落ちてその望みはかなわなくなってしまった。我が家の経済状況では浪人することもできそうにない。私は唯一無二の友達を作る機会を永遠に失ったのだ。

ここまでの自分史を振り返って私は思ったのだ。

私がここまで不幸に育ってしまったのは神様が私の苦しむ姿を見てゲラゲラと笑うために作り出したからだ。私はこの地球上で大事にされることのなく、壊れてしまってもいい玩具として作られたのだ。

ようするに私が何を言いたいのかという神様というやつはどうしようもない悪趣味な奴だということだ。

私の人生なんて生まれてきた時から終わっているのである。ぼろぼろになるまで神様の手の平で遊ばれ続ける運命なのだ。

ならばせめて反抗し続けてやりたいと思い、私は布団の中にこもり

続けることに決めた。

しかしそれはかなわなかった。

父に布団を剥ぎ取られ「いい加減にしなさい」と一喝されたのだ。怒鳴られた後私は居間へ連れてこられた。家族間で話しをするところは昔からこのこと決まっているのだ。

「これから先どうするんだ」

最近口癖のように聞いてくる言葉を父は口にした。

「わからない」

私はやっぱり口癖になっているその言葉を父に返した。

「わからないじゃないだろう。大学に落ちたってこれから先の人生はあるんだ。さあこれから先やってみたいことを言ってみなさい。なんでもいいから」

このとき私は何を思ってこんなことを言ったのだろうか？私は無意識にこんなことを言っていた。

「もう、死んでしまいたい……」

父は驚いたような顔をしていた。そしてその顔はだんだんと苦しそうな、辛そうな顔に変わり、そしてこう言った。

「お前が苦しいのはわかった。時間をいっぱい使って考えろといい。だからどうかそんな親不幸なことを言わないでくれ」

そういうと父は私を残して部屋を出て行った。

一人ぼつんと残された居間で私は思った。

これから先、私はこうやって自分が苦しんで他人を苦しめる人生を歩んでいくんだなど。

神様が私を痛めつける遊びはこれから先もまだまだ続く。

(後書き)

感想聞けたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4271i/>

神様のいけない遊び

2010年10月8日15時13分発行